

# ぼむ・ぼむ通信

No. 61

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



## ～2013年度ユニセフリーダーセミナーから～

ぼむ・ぼむ通信 No. 61

### 目次

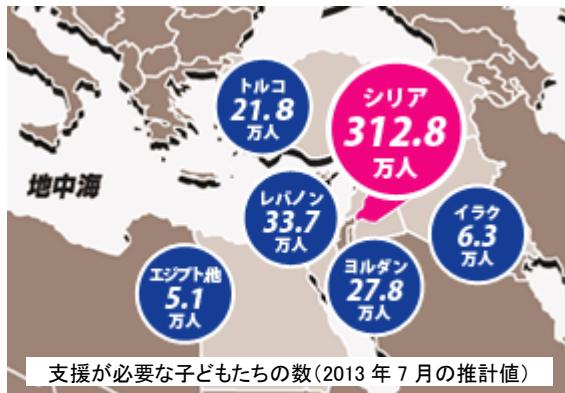
◇シリア緊急募金	1
～出口の見えないシリア危機～	
◇知っとこ。ユニセフ 経口補水塩	4
◇世界の子どもたちは今 シリア [水と衛生]	5
◇生協のユニセフ支援活動 夏休みの子ども向けの企画など	6
*パルシステム神奈川ゆめコープ *みやぎ生協	
*富山県生協 *コープみらい (さいたまエリア)	
◇トピックス	
* 2013年度ユニセフリーダーセミナーを開催しました	9
* もうお読みになりましたか『世界子供白書2013』	12

### ぼむ・ぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくとも、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



## シリア緊急募金 ~出口の見えないシリア危機~



2011年に始まったシリアの紛争が、今年に入ってさらに激化。国内避難民となった200万人を含め、312万人の子どもが影響を受け、さらに100万人が周辺国に避難を強いられるなど、約400万人の子どもたちが今、危機に直面しています。どの避難キャンプも紛争から逃れてきた人々で過密状態になり、薬や水や食料も不足しています。子どもたちは不衛生な環境の中で、感染症の脅威にもさらされています。

何の罪もない子どもたちを巻き添えにして、多くの尊い命が失われ続けています。水の供給や予防接種など、子どもの命を守る支援活動はもとより、親を失った子どもたちの保護、傷ついた心のケアや学校の再開なども早急に進めなければなりません。しかし現地では、支援物資の供給、医師や教師の確保、破壊された交通や水道の整備など支援が追いつかず、困難を極めています。

**400万人**

今すぐ支援の必要な  
子どもたち

**100万人**

紛争を逃れ、国境を越えて  
難民となった子どもたち

**10万人以上**

シリアの紛争で  
これまでに失われた命

### ◆ 1年におよぶ難民キャンプでの生活

オマールさんが妻と8人の子どもを連れてヨルダンのザータリ難民キャンプに着いたとき、彼らはここにいるのは数ヶ月くらいだろうと思っていた。しかし、12ヶ月経った今も、彼らはここにいます。

「まだここにいるなんて想像もしていませんでした。私たちが暮らしているテントはかつてキャンプの端にあり、すぐ横は砂漠でした」とオマールさんは言います。「しかし、今はキャンプから出るのに1時間以上歩かなければならないのです」。ザータリ難民キャンプでは、約12万人が生活をしており、およそ9平方キロメートルまで拡大しています。

オマールさんの最大の心配事は子どもたちです。「子どもたちは何もすることがなく、避難生活に飽き始めています。」彼の子どもたちはユニセフの支援によって行われているキャンプ内の学校に通っています。



©UNICEF/Jordan-2013/Masciarelli

ザータリ難民キャンプにいるシリア人約12万人のうち、半数は子どもといわれている

学校に通うことは日常生活の一部を取り戻すのに役立っていますが、長引く難民キャンプでの生活状況のせいで勉強に集中できなくなっています。「子どもたちはかつてシリアで良い暮らしをしていました。疲弊していなかったので、情報の吸収ができていました」とオマールさんは言います。夏の猛暑がさらに学習環境を困難にしています。オマールさんはまた、過酷な冬の訪れに恐怖を覚えています。「去年の冬は本当に過酷でした。ガスの暖房が配られましたが、寒すぎてガスの火だけでは足りませんでした。」

さらに深刻な問題は仕事がないことです。オマールさんたちのテントは市場がある通りの横に位置しているため、その恩恵を少し受けています。「お店を出すにはいい場所なんです。私はそこでは働かず、人を雇って彼にお給料を支払っています」とオマールさんはいいます。彼の店では簡単な食材を売っていて、月に 50~60 ディナール(米ドルで 70~85 ドル)を稼ぎ、そのお金で野菜などを買っています。

1 年が経過し、オマールさんは彼の1つの希望をこう話しています。「ここでの生活が永久だと思わないでください、我々はずっとここにはいたくない。必要なことはシリアに戻るための支援なのです。」

### ◆ 深刻な水と衛生の状況

シリア国内で清潔で安全な水が使える割合は、内戦前と比べ 3 分の 1 まで低下しました。現在、425 万人以上のシリア人が、シェルターに身を寄せて暮らしており、トイレやシャワーを十分に使えません。下水道システムは破壊されるか、使用する人が増えてひっ迫しています。



© UNICEF/NYHQ2013-0495/John Wreford

ポリタンクを運ぶ避難民の男の子

難民キャンプも厳しい状況です。イラクのドミズ難民キャンプには、収容人数 2 万 5 千人の倍の 5 万人が暮らしており、環境はより厳しいものになっています。ヨルダンのザータリ難民キャンプは、今や世界で 2 番目に大きな難民キャンプとなり、12 万人が避難。支援機関は、難民とニーズの増加に対応すべく、支援活動を行っています。

レバノンには、50 万人以上のシリア難民がレバノンの町や村で避難生活を送っています。また、シリア人が独自に立てたテント型住居もあり、既存の給水設備やトイレに深刻な影響を与えています。複数の世帯がアパートなどの小さな家で共同生活を送っている、または、簡易なテントに住んでいるといった場合は、水やトイレ、ごみ収集といったサービスがさらに利用しにくくなっています。女性と子どもたちは、長時間歩いての水汲みをしなければなりませんが、こうして手に入る水も、多くの場合、安全なものとは言えません。



© UNICEF PFPG2013P-0023

子どもたちが飲み水を汲みにくる川はごみで汚れている

## ◆ 水と衛生に関するユニセフの支援活動

シリア国内では、新たな発電機や既存のシステムの復旧により、紛争が激しい地域においても、給水網と浄水設備が稼働しています。



©UNICEF/Jordan2013/Alexis Masciarelli

レバノンでは、ユニセフとパートナー団体が、水と衛生分野を主導的に支援しています。シャンプーやせっけん、洗剤などが入った衛生キットを今年だけすでに約1万セット配布しており、43万人以上に支援を届けました。

ヨルダンでは、ユニセフとパートナー団体が、毎日400万リットル以上の水をザータリ難民キャンプにトラックで運搬。キャンプ近郊の給水設備やネットワークの修繕も行っています。今後新たに完成するアズラク難民キャンプでも、給水設備の設置準備が進められています。



容量1,000リットルの貯水タンクの前で歯を磨く子どもたち

## ◆ 今なお必要とされている資金

ユニセフが国際社会に支援要請した今年1年間の目標金額は**約4億7千万ドル**(約450億円)。シリア国内での緊急支援活動に必要な資金の**18%**が不足、また、シリア国外に避難を余儀なくされた人々に対する緊急支援活動に必要な資金の**49%**が不足しています。(2013年8月時点)



## ◆ シリア緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、シリアとその周辺国に避難を余儀なくされている子どもに対して  
ユニセフが行う緊急支援のための**シリア緊急募金**を受け付けています。  
あたたかいご支援をよろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座  
振替口座: 00190-5-31000  
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

\*通信欄に「**シリア**」と明記願います。  
\*窓口からのお振込の場合、送金手数料は免除されます。

(参考資料: 日本ユニセフ協会 HP シリア緊急募金第52報、"Children of Syria" August 2013 を翻訳・編集)

# 知りたい？ 知っとこ。ユニセフ

## 経口補水塩(ORS)

### 経口補水塩 (ORS = Oral Rehydration Salt) をご存知ですか？

下痢・嘔吐・発熱などの脱水症状を改善するため用いられます。  
食塩とブドウ糖を混合したもので、安全な水に溶かして飲むことで、水の25倍の早さで水分が吸収されます。ユニセフではこの**ORS**を使っての経口補水療法 (**ORT** = Oral Rehydration Therapy) の普及に努めています。



#### ORS誕生物語

ORSの誕生は19世紀以降のコレラ研究と深い関係があります。

1832年、アイルランドの医師ラッタが瀕死のコレラ患者に食塩水を注射し、命を救いましたが、疑問視され、この治療法は普及しませんでした。

その後約80年後、英國の病理学者ロジャースがこの療法を再び実施。

1940年代末、オックスフォード大学の研究員が砂糖が小腸に吸収される際に、塩と水も一緒に運んでいくことを発見。同じ頃、アメリカのフィリップスが今日使用されているものに近い点滴溶液をつくりだしました。その後、彼は口から水分補給できるORSの開発に目を向けるも、実験中に死者を出し、研究を中止してしまいます。

しかし、1966年、東パキスタンのコレラ研究所所長に就任したフィリップスは再びORSの開発に精力を注ぎます。そして現地のコレラ流行の際に初のORT大規模テストに成功し、中程度の脱水症状なら点滴でなくてもORTだけで症状が回復することを確かめました。

1971年、東パキスタン内戦のときに難民キャンプでコレラが大流行。不足した点滴にかわりORSを持った医療班が、3,700人の患者に対しORTを実施し、96%以上の患者の命を救うことができました

(参考資料:T-NET通信14号「ORS誕生物語」より抜粋・編集)

2013年夏は猛暑・熱中症・脱水症状などの言葉が多く聞かれました。  
脱水症状を救う吸収のよい水分補給としてこの経口補水液が紹介されていました。

#### 家でできる経口補水療法

1. 沸騰させて殺菌した湯さまし…1ℓ
2. 砂糖…小さじ6
3. 塩…小さじ1/2
4. 1+2+3をかきまして、下痢をした子どもに飲ませます。



1980年代中頃、下痢を原因とする脱水症状が、年間500万人の5歳児未満の子どもの命を奪っていました。現在ではこのORSを使った療法のおかげで、たくさんの子どもの命が救われています。

**支援ギフト**として募金する方法もあります。

エチオピア・シリア・ミャンマー・パキスタンなどに送られました。



©UNICEF/INDIA2010-00209/Crouch

#### 「水と衛生」に関連して、もう1つお知らせ…

手をあらおう。手をつなごう。  
10/15は世界手洗いの日です。



※日本ユニセフ協会は、日本の子どもたちに、正しい手洗いの大切さを楽しく伝えるとともに、世界の子どもたちが直面する保健や衛生の問題を理解していただくため、毎年「世界手洗いの日」プロジェクトを実施しています。

詳しくはこちらをご覧下さい ⇒ <http://handwashing.jp/>



# 世界の子どもたちは今



シリア  
[水と衛生]

ユニセフは他の国連機関とともに、何百万人にも上るシリア難民に対応するため史上最大規模の支援を訴えています。



※「知っとこユニセフ」も見てね。

## 生協のユニセフ支援活動 Partnership



パルシステム神奈川ゆめコープ 平和・国際活動ハートカフェ 2013



7月31日、パルシステム神奈川ゆめコープ主催の平和・国際活動のイベント「ハートカフェ 2013」が開催されました。このハートカフェは、海外協力や支援を行っている団体と組合員、地域住民が交流する場として、また、パルシステム神奈川ゆめコープの平和・国際活動の取り組みを伝える場として毎年行われています。今年は、神奈川県ユニセフ協会など、国内外で活動している10の団体が出展しました。



今年で8年目を迎えたハートカフェ

出展団体の活動報告では、パルシステム神奈川ゆめコープから、ユニセフ・スタディーツアー（2013年2月）の報告もおこなわれました。同生協からの参加者である杉本さんが、ラオスの子どもたちの状況について報告し、ラオ語を母語としない遠隔地の子どもたちにとって、ユニセフの支援でおこなわれている就学前教育がいかに重要か、熱く語りました。



ラオススタディーツアー報告の様子 ユニセフすごろくの体験コーナーも



親子で楽しむゲームやプチボランティア体験ができる「ゲーム・体験コーナー」では、ユニセフすごろくも行われ、参加者は楽しみながら世界の子どもたちの生活について学びました。



みやぎ生協 夏休みユニセフ教室～外国コイン仕分け活動



7月27日、みやぎ生協文化会館ウィズで「夏休みユニセフ教室～外国コイン仕分け活動」が開催され、小学生親子など約70人が参加しました。

今年で 15 回目にもなるこの活動は、仙台空港に設置された「ユニセフ・外国コイン募金箱」に海外からの帰国者が投入してくれた外国コインや紙幣を、年 1 回、夏休みのボランティア活動として国ごとに仕分けを行うものです。

午前中は、ビデオ「ユニセフと地球のともだち」やマルバツクイズでユニセフの活動について学習した後、仕分けの手順を聞き、6 つのグループに分かれてコインの仕分けに取り組みました。各国の通貨を国別、金種別に分けて、枚数を数えます。



年に一回、回収します



ビデオ「ユニセフと地球のともだち」  
で学習



一番多かったのは韓国の通貨です

午後は、子どもたちから「こんなコイン見つけたよ！」とグループ発表の時間です。めずらしいコインがたくさん見つかったようです。集計結果も発表され、コインは日本円に換算して 115,188 円 (9,669 枚)、紙幣と合わせると合計 245,769 円でした。今年お預かりしたコインや紙幣は、日本ユニセフ協会へ送ります。



## 富山県生協 蜜蝟のキャンドルづくり & 「電灯を知らない子どもたち」学習会



8月3日、富山県生協本部で「蜜蝟のキャンドルづくり & 電灯を知らない子どもたち」の学習会が開催され、18 家族 46 人が参加しました。

前半の「蜜蝟のキャンドルづくり」では、ミツバチが作った蜜蝟でキャンドルづくりを体験し、自然界との共生について学びました。手軽に加工できるため、子どもも大人も夢中になって、ケーキ、塔、船などさまざまな形のキャンドルを作っていました。



親子でキャンドルづくり

後半は、ユニセフ俱楽部の組合員スタッフが、まだまだ恵まれない環境のもとで生活しているアンゴラの「電灯を知ら

ない子どもたち」について話をしました。関連して「CO・OP コアノン スマイルスクールプロジェクト」や、同プロジェクトで支援をしているアンゴラの子どもたちの現状についても紹介しました。

参加者からは「初めて聞く話に子どもが真剣になって聞いていました。私たちは恵まれていること、世界にはいろいろな環境で生活している子どもがいることを聞かせることができてよかった」といった感想も寄せられました。



アンゴラの小学校を写真で紹介



## copeみらい（さいたまエリア） ユニセフ子どもセミナー2013



8月20～21日の2日間にわたり、埼玉県ユニセフ協会の主催で、小学生および中学生のための夏休み応援講座として「ユニセフ子どもセミナー2013」が開催され、世界の子どもたちの現状とユニセフの活動を学びました。

1日目は、親子34人が参加し、ユニセフハウスを訪れ、ガイドの方の説明を聞きながら、展示されている水がめや井戸、対人地雷や銃のレプリカ、避難キャンプの様子などを見学しました。

2日目は、親子18人が参加し、copeプラザ浦和で開催され、ワークショップで「貿易」が世界の人々の暮らしに与える影響を体感し、子どもたちの命と健康を守るために、ユニセフはどんな仕事をしているかを学習しました。また、埼玉県ユニセフ協会の中牟田さんによるラオススタディーツアー（2013年2月）の報告や、東日本大震災の支援報告なども行われました。



水がめや井戸の説明を受ける子どもたち

参加者からは、「あたりまえのようにできている生活ができるない子どもたちが、まだまだたくさんいるということを実感しました」など多くの感想が寄せられました。



ワークショップで貿易ゲームを体験



ラオススタディーツアー報告



## 2013年度 ユニセフリーダーセミナーを開催しました

7月26日、東京のユニセフハウスで、2013年度 ユニセフリーダーセミナーが開催されました。ユニセフ活動に取り組んでいる全国の生協から、16生協・36人が参加しました。

### (1)プログラム

10:30	開会
10:35	<b>プログラム① 導入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本生協連と日本ユニセフ協会からの報告</li> </ul>
11:00	<b>プログラム② ユニセフのことを理解しよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイスブレーキング</li> <li>ユニセフ理解ワークショップ「教育について」</li> </ul>
12:30	昼食休憩（2013年2月のラオススタディーツアー報告DVDを上映）
13:30	<b>プログラム③ ユニセフ現地報告</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>沖本瑞穂さん（ユニセフ・ラオス事務所 社会政策セクション・チーフ）</li> </ul>
14:50	休憩
15:00	<b>プログラム④ ユニセフ協力活動についてのグループ交流と発表</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各生協のユニセフ協力活動</li> <li>「効果的なユニセフ協力活動」や「参加を広げる工夫」について</li> </ul>
16:45	セミナーまとめ
17:00	閉会

### (2)ワークショップ「教育について」

（ファシリテーター：日本ユニセフ協会 石尾匠さん）

ワークショップが始まると、最初に世界の子どもの小学校就学率や中途退学率とその理由、識字率についてクイズ形式で確認しました。石尾さんの出すクイズの答えを考えながら会場の4隅にある選択肢のA・B・C・Dまで移動し、正解が出るたびに「やった～」「そうなんだ」「まちがえた」と、それぞれの場所でちょっとした交流がありました。

次に、「文字の読み・書き・計算ができない」ことによる弊害を体験するグループワーク“就職先を見つけよう！”を行いました。石尾さんからの作業指示は、「これから求人広告を配ります。3つの中から就職先をグループごと話し合って決めてください」。求人広告には、どこかの国の文字と数字が書いてあります。読めないため、同じ文字を探して数字が何を表わしているかを考え、就職先を決めました。その後、日本語で書かれた求人広告が渡され、自分たちは就職できたのかを確認しました。グループワークを通じて参加者からは、「字が読めないと、不安でした」、「日本語で書かれた求人広告を見て、だまされたという気持ちになった」などの感想が寄せられました。

字が読めることで正しい情報なのか、そうでないのか判断することができます。教育によって字が読めるようになると可能性が広がります。読み書きができるのが当たり前と思っていた参加



グループワーク  
“就職先を見つけよう！”の様子

者が、教育の大切さを感じたワークショップでした。

### (3) ラオス現地報告

(ユニセフ・ラオス事務所 社会政策セクション・チーフ 沖本瑞穂さん)

政府との会議ではいつも着ていらっしゃるという、ラオスの民族衣装のスカートを身につけて登場された沖本瑞穂さん。ユニセフ・ラオス事務所で社会政策セクション・チーフをされている沖本さんに、ラオスでのユニセフの活動についてお聞きしました。

ラオス政府とユニセフの4ヵ年計画(2012-2015)の最優先事項は最も困難な状況の子ども達に焦点を当て、格差の是正を図ることです。



報告中の沖本さん

例えば5才未満児死亡率では、首都と北部のある県では約5倍の差があります。また基礎教育を受けていない女性のもとでは幼児死亡率が高いというジェンダーによる格差もあります。このような保健・栄養、水と衛生、教育における格差の問題について、ユニセフの取り組みを話されました。

「幸せ」について子ども達に聞いているビデオでは、少しばしかんだ表情の子ども達が「たくさんの友達がいること」、「家族のサポートがあること」など、次々と自分達の気持ちを伝えてくれていました。

また、不十分な子どもの保護に関する、社会児童福祉制度の起草や子ども保護に関する法整備などを進めているとのことです。

保健・教育・児童福祉サービスへの必要な財源が確保されるように、子どもに関するデータ収集や研究に基づいた政策提言をしていく事が重要だと話されていました。実際に村の人々に聞き取りをしているビデオは、データ収集の様子がよくわかり興味深いものでした。

最後に「ユニセフ職員として」と題して、今までのご自身の活動を話された中で、「ユニセフは完全母乳育児を推進しているので、なるべく実践したいと思い、可能な限り出張などにも子どもを連れて行っています」と微笑ましい写真も見せてくださいました。

質問コーナーでは、スタディツアーが今年2月にあったということもあり、たくさんの質問がありました。現在のラオスの状況や、HIV/エイズ・子ども保護・不発弾についてなど内容の濃い質問も多くあり、参加者の方々の関心の深さを感じました。



沖本さんがラオスから届けてくださった民族衣装などを会場に展示

### (4) ユニセフ協力活動についてのグループ交流と発表

7グループに分かれて参加生協のユニセフ活動の報告と交流をおこなった後、「効果的な活動方法」や「より多くの人の参加を得るために工夫」について討議と発表を行いました。参加者どうして工夫・悩み・問題を共有することができました。必ずしも答えが見つからない悩みや問題もありましたが、今後の活動に役立てていただける交流になりました。

#### <募金活動について>

- ・ハンド・イン・ハンドの時にほぺたん（コープネットグループの生協の宅配 コープデリのキャラクター）、各県市のキャラクターを招き、一緒に募金活動をしている。
- ・ユニセフの活動を聞いてもらい理解した後に販売するとグッズは売れる。
- ・店舗の中でユニセフに関するクイズラリーをしたり、買い物のついでに募金をお願いしたりしている。

#### <学習会について>

- ・ユニセフを知ってもらいたいが、学習会に人が集まらない。
- ・コープ会では“食べてしゃべって情報ゲット”でテーマを決めて交流会をしている。託児をつけてお母さんたちに聞いてもらう。気楽に参加している。2年の登録制。
- ・これから学習会をやりたい。知ってもらう活動をしなかった。

#### <情報発信・お知らせについて>

- ・“見つける、知らせる、つながる”という「る・る・るの法則」。あきらめないで情報発信を続けていくことが大切。

#### <ユニセフへの要望・疑問>

- ・募金を振り込んだら振り込み用紙を送って来るのはなぜか。
- ・募金活動をした場所に募金額の報告を掲示する。
- ・募金がどのように使われているかわからない。



最後にご参加いただいた皆さんで集合写真

### (5) 参加者からの感想

7月からユニセフの担当になり、わからないことばかりの中での参加でした。東日本大震災でまだまだ復興はほど遠く、ユニセフより被災地の復興が先だと思っていた自分がありましたが、今回のセミナーに参加して、世界にはもっともっと手をさしるべき子どもたちがいることを改めて知り、ユニセフの活動の大切さを理解することができました。

地域とのつながりは、ユニセフ活動においても、とても大切なキーワードであると思いました。子どもがユニセフに関わっていくことも大事なこと、学校も一緒にという取り組みは本当に大きなことと感じました。

達成感のある会でした。楽しかったし、アイディアをいただき、リフレッシュ!!

「教育」ワークショップはとても良かつた。関東の方との交流はほとんどないので、いろいろ聞くことができました。でも、こちらまではなかなか遠いので、京都での開催を望みます。今回はいい機会を得ました。次に進める力にします。

みなさん様々な活動をして頑張っているからすごいなーと思いました。また、ユニセフハウスの中の展示も生で見て勉強になりました。

日頃の悩みを、他生協さんと共有できただけが、大きな手応えでした。企画委員の皆さん、ありがとうございました。

初めての参加でしたが、とても有益でした。世界の様々な国の状況が具体的に見えるいい機会です。

もうお読みになりましたか？

## 『世界子供白書 2013 - 障がいのある子どもたち』

ユニセフが、世界の子どもたちを取り巻く様々な問題について、その年のテーマに沿って調査・分析し、対策を提言するために毎年発表している『世界子供白書』。

今年のテーマ「障がいのある子どもたち」の中で検証・提言しているのは、障がいのある子どもたちのみならず、その子どもたちが住む社会も恩恵を受けるため、すべての人が平等に受け入れられる格差のない社会「インクルーシブ＝誰もが受け入れられる社会」を、どのようにしたら実現できるのかということです。

### 国際社会がとるべき行動は・・・

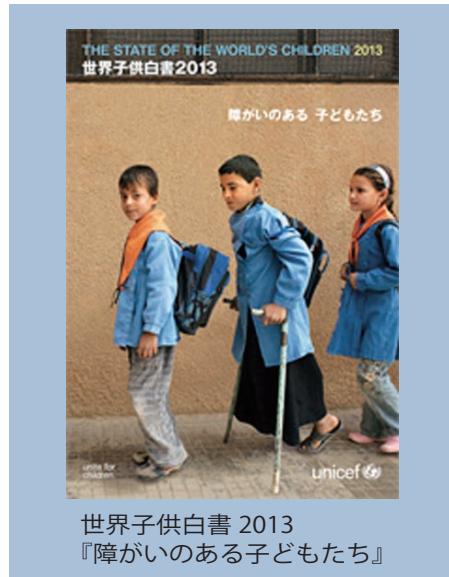
① 各国政府が「障害者の権利に関する条約」と、「子どもの権利条約」の内容を具体化し、障がいのある子どもを持つことによって高額となる生活費が負担とならないよう家族・家庭をサポートすること。

② 子どもの命や成長に不可欠な社会サービス提供者の中に存在する、障がいのある子どもたちに対する差別を排除する施策を展開すること。

③ 国際機関は「障害者の権利に関する条約」と、「子どもの権利条約」の内容に順じ、各国政府に助言や支援をする。障がいのある人々に関するデータ収集・国際的な研究の実施を呼びかけ、計画をすること。

『世界子供白書 2013』日本語版は、日本ユニセフ協会ホームページからもご覧いただけます。

[http://www.unicef.or.jp/library/library\\_wdb13.html](http://www.unicef.or.jp/library/library_wdb13.html)



世界子供白書 2013  
『障がいのある子どもたち』

子どもたちが  
何かができるようになれば、  
社会そのものが  
何かができるようになる

子ども（その人物）ではなく、  
“障がい”に目を向けることは  
不当であり、社会に貢献できる  
すべての可能性も奪う行為なん  
です。

子どもたちが可能性を失うこととは、社会もその可能性を失うこと。

子どもたちが何かができるようになれば、社会そのものが何かができるようになるのです。

アンソニー・レーク  
ユニセフ事務局長

## ぼむ・ぼむ広場

### 編集後記

◆ 7月17日、ユニセフハウスでユニセフシリア事務所教育担当官、園田智也さんの報告会がありました。「シリア国民は約2500万人の6割が西に住んでいます。ホムス県で3つ目に大きな都市では、9200人が殺害され、そのうち6500人が10歳以下の子どもです。また、シリア国内の140万人以上の子どもたちは学校に通えないままです。ユニセフは、内戦がいつ終わるかわからないなか、子どもたちに安全な水と勉強ができる友達と安心して遊べる場所を確保するために活動しています。これからこの国を担う子どもたちが戦争しか知らないまま大人になるとまた争いを始める、そうならないためには教育と子どもの感性を伸ばす遊びの場が必要です。シリア政府は西洋の教育を取り入れるのに反対でしたが受け入れました。まだまだ活動をしなくてはいけませんが、残念ながら活動資金が目標額に達していません。皆さんには一層のシリア緊急募金をお願いします」と園田さんは話していました。

ユニセフ\*コープネットワーク  
**ぼむ・ぼむ通信**  
No.61 2013年9月17日発行  
編集 グループ ぼむ・ぼむ  
スタッフ・編集／小池・武田・立川・土橋・浜崎・  
松本・山本・石尾・中村・阿久根  
イラスト／蜷沢

発行 日本生協連 組合員活動部  
〒150-8913  
東京都渋谷区渋谷3-29-8 コープフロア 11F  
TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125  
ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2013年12月13日発行予定です。

### ぼむ・ぼむ通信・ひとことカード

今回の「ぼむ・ぼむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。次号以降の参考にさせていただきます。

生協名：

氏名（ペンネーム可）：

《組合員・役職員・その他》

ご協力、ありがとうございました！

右記の宛先までお送りください。 宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX：03-5778-8125

MAIL：[kumikatsu@jccu.coop](mailto:kumikatsu@jccu.coop)